

**B06**

**学習編**

問 B06

P.65

ある小学校で先生方が立てた以下の授業計画の中で、文部科学省の定める情報教育のねらいに近いものはどれですか。【適切なもの】を2つ選び、チェックしなさい。

1. 鈴木先生は、算数の時間にコンピュータを用いたドリル学習の計画を立てた。
2. 中田先生は、お絵かき、ワープロなどの操作手順を習得する計画を立てた。
3. 中山先生は、各教科の指導でコンピュータを使った分かりやすい授業をすすめる計画を立てた。
4. 小野先生は、情報を集めたり調べたりする情報活用の活動をさまざまな学習場面に取り入れた授業を計画した。
5. 宮本先生は、発表の活動の中に、OHPシートや模造紙を使って分かりやすい資料を作成する活動を取り入れた授業を計画した。

答え：4、5

解説

情報教育のねらいとは・・・

- ・ 初等中等教育における情報教育では、「情報活用能力」の育成を目標としている。
  
- ・ 「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」の三要素から構成される「情報活用能力」をバランス良く、総合的に育成することを目標としている。ただし、学習指導に情報手段を活用すれば自ずと「情報活用能力」が身に付くというわけではなく、例えば、理科の元素や数学の立体図形などにおいて映像を用いた指導やドリル型CAIを活用した学習活動などは、基本的な概念や原理を理解させたり知識の定着を図ることなど、各教科等の目標を達成することを目的としているものである。したがって、教員は、2つの目的（情報活用能力の育成と教科等の目標達成）を同時に意識し、そのための働きかけを計画、実施して、実際に効果があったかどうかを確認することが大切である。

（新「情報教育に関する手引」第2章第一節より）

ここからいえることは・・・

- ・ 情報教育のねらいは、コンピュータや情報機器の扱い方を指導する、というものではない
- ・ 休暇の目標を効果的に達成するための情報機器の利用は情報教育のねらいとは異なる

問題を見てみると・・・

- 1・・・教科の目標達成のための情報機器の利用
- 2・・・情報機器の扱い方を習得することを目的としている
- 3・・・教科も目標達成のための情報機器の利用

情報教育のねらいではなく、「教育の情報化」の目的。

- 4、5・・・「情報活用の実践力」の育成が目的

よって答えは4、5となる。